妙高　火打山

日程：2009 年 2 月 14(土)～15 日(日)

メンバー：L 志満、菊地、橋立、白土(記録)

前日にはたくさんの雨が降ったためハードバーンが多く、決して快適な滑りはできなかったが、季節はずれの暖かさと晴天に恵まれて展望は最高だった。厳冬期の火打山の山頂に立てた達成感もあった。

行程：2/14(土)杉ノ原ゴンドラ終点～第三高速リフト終点～三田原山～高谷池ヒュッテ
2/15(日)高谷池ヒュッテ～火打山～高谷池ヒュッテ～三田原山～第三高速リフト終点
1/25000 地形図：赤倉、妙高山、湯川内

2/14(土)
日本海低気圧による南風となり、2 月とは思えない暖かさであった。前泊した道の駅「しなの」では雨が降り続いていたが朝には止んだ。杉ノ原スキー場へ移動して入山準備をしたが、強風のため第三高速リフトの運行見通しがない。とりあえずゴンドラに乗り込んだが途中でゴンドラは何度も停止し、その後運行停止となった。ゴンドラ終点からシールをつけてゲレンデ脇を登る。第三リフト終点まで 1 時間のシール登高。ゲレンデスキーヤーはもちろん他の入山パーティーはいない。雪崩に気をつけながら沢をトラバースしたあと、疎林の斜面を左上する。妙高の外輪山では風が強い。三田原山からは火打山、焼山がよく見える。シールを外して黒沢池への谷を滑り込む。2 年前に来たときは気持ちのいいパウダーだったが、今日は分厚いモナカ雪で滑りにくいことこの上ない。雪面には雨が流れた跡が残り、波打っている。黒沢池の真ん中でシールをつけていると、前日から入山している菊地さんが正面の斜面を滑ってきた。昨日の入山者もいなく今日も後続パーティーがいないので、高谷池ヒュッテは貸し切りなりそうだ。黒沢池西側の斜面を登り返した後、高谷池ヒュッテに到着した。3 階から中に入り、一番奥のテーブルエリアに陣取る。結局後続パーティーもなく 4 人で貸し切り。布団も使い放題でこれ以上ない快適な一夜だった。

雪崩が多い最初の沢

高谷池ヒュッテは貸し切り

2/15(日)

　今日は快晴だ。きれいな青空がどこまでも続いている。小屋からは火打山、焼岳がよく見える。一面雪で覆われた高谷池を渡り、天狗の庭へと進む。尾根に取り付いてどんどん登る。クラストした急斜面では段々シールが効かなくなり、板を背負って歩行アイゼンに切り替える。火打山への最後の斜面を前にして、橋立さんと菊地さんは引き返す。志満さんは滑走に不安があるのでコルに板をデポする。斜面はさらにクラストしてテカテカに光っている。斜度はそんなにないので横滑りなら何とか下りられるだろう。山頂に着くとその向こうに焼岳がよく見え、日本海も眺めることができた。依然風は強い。ザックから板を下ろし、シールをはがして下り始める。横滑りとキックターンを繰り返して高度を下げる。波打っていない雪面で何度かターンしただけだ。コルからは、登ってきた尾根の南側をトラバースして下っていく。天狗の庭で小休止。振り返ると滑ってきた斜面が全部見える。スキーの下りはあっという間だ。シールをつけて登り返し高谷池ヒュッテに戻った。朝食で食べた具だくさん豚汁が残っていたので腹ごしらえする。下山準備を整え部屋を掃除して高谷池ヒュッテを後にした。黒沢池への斜面もまだ堅いが、火打山の斜面よりまだまし。黒沢池を渡り、三田原山へ登り返す。この時期なら三田原山からの滑りは快適パウダーが期待できるが今日はやはりクラストしている。それでも日差しがあるので少し緩んだが、登りのルートを引き返してスキー場トップへ戻ることとした。日帰り組みもたくさん上がってきていた。適度な斜度の疎林なので滑るにはちょうどいい斜面なのだが、雪質が悪いのが悔やまれる。しかし天気次第なのでこればかりは仕方がない。あっという間に杉ノ原スキー場に戻った。

　ハードバーンが続き雪質は今ひとつだったが、これもいい経験となった。晴天に恵まれ他のパーティーもいなくて山も小屋も貸し切り。雪質以外はこれ以上ない、いいコンディションだった。

焼岳、影火打、火打山